

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月19日

北海道教育委員会教育長 様

北海道苫小牧東高等学校長 古御堂 徹 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 わかる授業を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る
2 教育相談活動の充実を図り、生徒理解に立った生徒指導を実践する

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	本校定時制生徒の育成すべき資質・能力を明確にし学校目標を共有したうえで、その目標実現のために人的資源を最大限に活用し協働体制を充実することが求められる。	○適切な評価である。 教職員の協働体制のもと、生徒は安心安全な学校生活を送ることができている。 不登校生徒がいないことも評価できる。
改善方策	研修等を通じ評価方法について共通理解を深め、日々の授業で実践する。	
学習指導	生徒1人1人の能力や個性を把握し、実態に則した「分かる授業を」を実施している。	○概ね適切な評価である。 楽しく分かる授業の実践により、学ぶことの楽しさを知り、将来の選択肢が広がるような実践的な教育を行ってほしい。
改善方策	主体的に考えさせる場面を増やし、生徒の表現する力を向上させる。	
進路指導	進路実現に向けて進路指導員による講演と個人面談は一定の成果があった。今後、卒業生全員の進路を内定させることができるように取り組んでいく必要がある。	○概ね適切な評価である。 インターンシップ等を体験させ、社会人として必要となる資質の向上を目指してほしい。
改善方策	外部組織や地域との関わりを通して、自らの良さの発見し、他者の多様な価値観を尊重しながら社会へ参加できる資質の向上を図る。	
生活指導 保健関係	日頃の声かけの励行により、多様な背景を持つ生徒の理解と個性の伸長を図ることができた。	○適切な評価である。 今後も生徒に寄り添い、個別の課題を克服できるように支援を続けてほしい。
改善方策	生徒の特性や心情に寄り添った教育相談を充実させ、教職員が連携し課題解決を図る。	
行事 HR活動	生徒会活動・諸行事を通じ、連帯感・帰属意識を高めることができた。	○適切な評価である。 学校行事が充実しており、生徒たちが楽しんで参加している様子が見て取れる。
改善方策	生徒会活動を活発化し、生徒自身が企画・立案・実施できるように指導する。	
総合的な探究の時間のほか	インターンシップなど体験を通じて、社会へ適応できる力を育成すると共に、課題を見つけて解決方法を探究する力を育成するように努めていきたい。	○概ね適切な評価である。 自ら課題を見つけ探究する力を育成するよう努めてほしい。引き続き、成功体験を重ねて、生徒の自信を高めてほしい。
改善方策	キャリアパスポートを活用し、振り返りを重視しながら、社会で生きて働く力を育成する。	
公表方法	PTA役員会や学校評議員会での説明。本校ホームページにて公表。	

3 添付資料

- (1) 令和7年度自己評価
(2) 令和7年度学校関係者評価書